

# 令和元年

## ソフィア・5月号

### 本物にふれよう

美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なるものに触れたときの感激、思いやり、憐れみ、賛嘆や愛情などのさまざまな形の感情が、ひとたび、よびさまされると、次はその対象となるものについてもっと知りたいと思うようになります。そのようにして見つけ出した知識は、しっかり身につきます。

「センス・オブ・ワンダー」レイチェル・カーソン著より

それは、みごとに子どもたちは、「たのしい!」「おもしろい!」「おいしい!」「いやだ!」それぞれの感情を表現してくれませんか?

子どもたちは、毎日であったものに心を動かし、感じています。豊かな感性を育むことは、心育てに通じます。子どもたちには本物に触れる体験をたくさんさせてあげたいですね。本物に触れる!?身構えてしまいますが、日常生活の中での、自分の体で「実体験」をする。ということです。子どもと一緒に近くの公園でブランコに乗り空を見上げる。散歩をする。虫の声を聞く、風のおい、雲の形を見る、土の感触を感じる。お花を愛でる、いい音楽を聴く、などなど五感を全開にした経験が心を育てる上でとても大切です。美しいものを美しいと感じ、好奇心をもち、ものごとに興味や関心をもって、学んでいく、ありがたい気持ちがわいてくる。そんな豊かな感性をもつ人の人生は心豊かなものになると信じます。デジタルな物が子どもたちの周りに埋め尽くされていますが、子どもの五感を大いに刺激する自然に親しむ時間も楽しんでいただければと思います。忙しい毎日に忘れていた、好きな音楽や好きな歌や好きなスポーツや・・・「好き」なもの、お父さん、お母さんがいいものだなあ、と思うものを伝えることが大切です。

ひるねのひ                      のはらうた    くだらなくおこ

きょうは あたたかい    かげがやさしいね    ちょうちよとんでるよ

ありもあるいてる    かげろうがゆれてるね    ひるねしたくなる

すみれいろの    ゆめ    きつと    みられるね

ひるねから    さめて    せのびしてみれば    まだひはながい

とろとろと    はるのひ